

## 審議会会議録

会議名称	令和元年度 第2回伊達市立図書館運営協力会		
議 題	(1)先進地視察を踏まえて、今後の図書館に応用可能な取組について (2)教育長への提言について		
開催日時	令和 元年 7月19日(金) 14時00分～15時10分		
場 所	伊達市立図書館 2階 視聴覚室		
出席委員	安藤 明 委員 小倉 敬 委員 万代 淳 委員 本多 正機 委員 伊藤 洋子 委員 田中八千代 委員 坪 美幸 委員 小林 浩路 委員 (計8名)		
	所管部課名	教育部図書館	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	1名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	

## 【会議の概要】

1. 開会 (事務局：図書館長)

2. 議題

(1)先進地視察を踏まえて、今後の図書館に応用可能な取組について

(2)教育長への提言について

【詳細は別紙のとおり】

3. その他

4. 閉会

【別紙（議題(1)・(2)に係る詳細）】

事務局：＜配布資料に沿って説明＞

委員：新ひだか町の館内が広すぎるとの声もあったが、広すぎではないと思う。広い図書館を整備することによって、これまで運営協力会で提言してきた内容の多くが解決できるのではと感じた。

明るく余裕を持った場所で資料を閲覧できる環境が整っていたり、学生たちむけなのか学習室が個人ブースになっていて現在の生徒はそういうのがいいのか、それとも所々に机があるのが良いのかとも感じた。

今回の視察で感じたのは、改めて図書館のことをまだ知らないんだなということ。図書館を新しくするとしたら、どうやってこれだけ専門的なことをプランに入れるのか、どういうシステムでやっているのかと。そもそも新ひだか町の図書館整備を専門の業者が担当しているのに驚いた。図書館にふさわしかったり使いやすいことを考えられていて、例えば、児童図書を表紙を見せて並べる。話をきくとなるほどいいなと思うが聞かないとわからない。書棚に溝があることで本も倒れない。私たちが図書館整備について議論する知識がまだまだ足りないと感じた。どのように情報収集すべきか考えさせられた。

事務局：因みに図書館の書架は、絵本、大型絵本、紙芝居など、それぞれに専用の書架が存在する。

委員：それは図書館専門の業者でなければならないのか。普通の家具だったり書棚ではできないのかなとも。

委員：事務機器業者でも取り扱っていると思う。学校では事務機器の取扱業者が専門の書架を納品していた。

委員：学校に事務機器の納品している人に聞いたが、特に難しいことではないようで納品することは可能とのことだった。

事務局：図書館整備を行う際には、書架についても市が作成した仕様書を基に、受託業者が書架を選定・納品することになる。

委員：そのような知識がなければ、設計の前に議論することも難しい。

委員：新ひだか町では、司書資格を持つ館長の他に正職員の専属司書がいた。館の職員がそもそも多い。司書を正職員で配置することは、効果的な運営を行う上で重要だと感じた。提言に添えてほしい。

委員：もう一つ驚いたのは、学校図書との関係で新ひだか町では町立図書館職員が学校図書館の本を管理していることに驚いた。

委員：教育委員会事務局から図書館に要請があったと説明を受けた。

委員：町立図書館が職員がそれぞれ担当の学校図書館があったりしてかなりの部

分で関与していて、図書館職員の負担増の部分が気になった。

伊達市での市立図書館と学校図書館との関係とは違う

事務局：学校の図書室は学校が管理しているので学校から要望がなければ中々難しいところがある。学校数の少ない自治体で図書館職員が学校図書館業務を兼務しているとは聞くが、伊達の場合は厳しい状況にある。

委員：図書館と学校図書館との関わりについて、一度整理して教育長に提言すべきではないか。

委員：個人的には学校の読書は教育や勉強のためというのが強いのかなど。図書館は、趣味・娯楽や生涯学習分野における読書であって、学校教育とは一線を画してほしいと思う。勿論、本という同じものを扱うので意見交換や協力できることはしたほうが良いとは思いますが。

過去に、学校に行きたくなければ図書館にきてもいいよということが報道で取り上げられたが、これは正しいと個人的には思う。

図書館は学校とは別の立場で子どもを受け入れる施設としてのほうが健全に思う。

委員：新ひだか町は施設が被災して緊多少時間差はあったものの施設整備を実施できたみたいですが。実際のところ、図書館の実現可能な増改築の時期はいつ頃なのか。図書館の持っている機能は大きかろうが小さかろうが同じで頑張っているなど感じているんですが、大きな建物イコールいい図書館ではないなど。

今回の視察で一番好感が持てたのはトイレだった。長時間滞在する人や子どもがいる人はトイレの快適さが重要になってくるし、玄関に近い場所にあって明るくてセキュリティにも配慮されている点が良かった。

自分は新しかろうが古かろうが図書館に足を運んでほしいという思いがある。図書館で色んなものに出会っているし、人生を豊かにしてくれる種だと感じているから。だから、もっと図書館に来たくなるかと聞いたら「スリッパを履きたくない」「玄関や下足室、トイレ周りが暗い」「空気が淀んでいる」という意見が返ってきた。とっさの印象って大事だなと。

東京三鷹市や札幌中央図書館にも足を運んだことがあるが、空調が整ってし、滞在するのに快適な空間が用意されているから時間があったら行こうかなと思っていた。利用者は弁当を持ってきたり、寝ている人もいます。図書館に来たことがない市民がまた行きたいと思える快適と思える空間づくりが重要。

事務局：おっしゃるようにそれはここ10年くらいでよく目にするようになってきていて、築約40年のこの図書館を建てたときと最近の図書館とではコンセプトが合致しないものの、児童書コーナーは大きな窓で明るい雰囲気はあ

る。ただ、古い建物ゆえに暗い部分があるのは事実で、司書が館内装飾に力を入れるなど、可能な限りの明るい空間づくりを心掛けている。新規利用のきっかけ作りについても、職員が新規イベントを企画するなどしてまずは足を運んでもらおう頑張っている。

照明等の更新は、将来的な増改築を見込んでどこまでお金をかけることが適当か、判断が難しい。

委員：そもそも、本当に増改築するのか。

事務局：そうですね、近いうちにということで準備を進めている。

委員：歴史と文化を強調している割には、移住者が来館したがる図書館があることが問題。

事務局：周辺施設が新しいので図書館の古さが目立つところもかもしれない。

委員：図書館の機能性をうまく利用できていない市民が多いのが残念。伊達の図書館になくても図書資料を取り寄せることができるということを知らなかったという方は多い。小さな図書館でも多くの本と出合えるのが可能だと市では周知すべき。

どういう図書館が良いかという意見を市民から集めることはできないのか。増改築後しばらくして来館者が減少するのではなく、継続的に今の2倍近い利用がある図書館になってほしいと思う。

事務局：市民の意見としては、この運営協力会の提言の他、平成27年度に策定した子ども読書推進計画のアンケート結果や平成28年度に開催した図書館あり方検討委員会の意見を踏まえて平成30年度に策定した図書館運営基本方針に取り込んでいる。

委員：例えば館内にカフェを整備することも盛り込んでいるのか。

事務局：具体的には盛り込んではいませんが、継続して配置できるかを踏まえて考えなければと思う。例えば、開館時間延長にしても継続できるかを見極めなければいけない。

委員：新ひだか町の開館時間延長の体制はどうだったか。

委員：職員対応だったと記憶している。

委員：新しいことをしようとしても現体制では限界がある。

事務局：過去に開館時間延長を試行したが、利用が極めて少なかったため、実施には至らなかった。

委員：どちらが先かですよね。開いているから来るのか、来るから開けるのか。図書館に来ていない市民に対し、図書館の取組をもっと知ってもらうことが重要。

委員：情報発信については、過去の運営協力会でも度々話題になっているが、現体制でできることはしているのが現状。

ただ、新ひだか町の図書館の来館者数を分析すると、施設整備によって、いままで利用していない市民が多く来館することも事実。10年前は、時期すら明確でなかった増改築が、あと数年という声まで聞かれるようになった。このことに期待したい。

これまでの提言のうち現在の施設で実現可能なものについては、予算や職員が少ない現体制の中で最大限実現していると感じている。

事務局：発信している情報が必要な方に届かないのは図書館としての力不足もある。また、昔に比べて情報手段や情報量が多くなっている。

委員：市民がもっと注目するのは新しい図書館ができるという記事だと思う。あと、新ひだか町では雑誌が読める場所が館内の一番手前に確保されていた。何度も足を運べるスペースが一番手前にあるというのがいい。コーヒー屋があるのもっといいのですが。

委員：昨年室蘭市にオープンした「きらん」でも、自動販売機があり飲食可能なスペースが確保されている。ああいうスペースもいい。

委員：喫茶店までいかななくても自販機があってそこで飲食ができるスペースがあるといい。

委員：あり方検討委員会でも課題解決の一番手段に図書館増改築を掲げているが、増改築にあたっては、資料を借りること、本を閲覧すること以外に、市民の交流の場、市民の居場所になる図書館を整備することで結論付けている。図書を利用するだけではなく図書館に行ったらのんびり寛げたり、人と人や人と本が繋がることのできるという図書館を目指したはず。

委員：コミュニケーションの場ということですよ。

委員：何年かこの運営協力会に参加しているが、提言は着実に実現化していることはあるが、新しい委員や市民には図書館が改善されていることが伝わっていない。そういう意味で、図書館に来ない市民のニーズ把握が必要。ただ、意見を集約したからといってそれをすべてやらなければならないというわけでもないし、他自治体が行っているからやらなければならないというわけでもない。伊達の人口の構成や規模を見ながら伊達の図書館で何ができて何が効果的なのかを調べていく必要がある。

例えば、今回市のホームページに図書館の貸出ランキングが掲出され、個人的には喜ばしかったが、あれを見て喜ぶ市民がどれほどいるのか。頑張っていることの効果があまりにも薄い。

事務局：広報紙もこれまでにないほど図書館に紙面を割いてくれているほか、新着図書案内もリニューアルしているが、図書館に興味のある方向けである。そうではない方で、例えば新しい世代に向けた啓発では、ブックスタート、ブックスタートステップにおける利用啓発など、新規利用の促進にも努

めていきたい。

そういう意味では子どもたちにとっても居心地のいい図書館も大事かと。

委員：数年後に新しい図書館ができるとのことで明るい気持ちになるが、他館を模倣しただけでは良いものはできない。伊達のニーズにあった図書館にしなければ。大きければいいというわけでもないが、伊達の図書館は一体何をしたいのか、何ができるのか、市民目線でどういうニーズがあるのかを集約していく必要がある。

一方で、新館ができるまで何もしないわけではなく、玄関を明るくするなどの要望には行政として応えていくべきと思う。

職員は努力していると感じているが、正職員の司書を採用することで実現できることは増える。新ひだか町の学校支援についても、学校から要望があったとはいえ、図書館の職員を拡充して対応している。人員の補充が必要と感じる。

委員：照明と空調については早急にすべき。将来的に増築するとしたら、改修経費は無駄にならないと思う。自分が管理している施設も、利用者の要望に応える形でエアコンを整備したがそれ程の経費負担でもなかった。築30年を超える施設であれば、毎年ある程度の修繕は必要。建て替えを理由に、現施設の修繕を惜しむ必要はないと思う。

事務局：現館は空調の機能を十分に発揮できるほどの気密性がない。可燃物が多いのでストーブを配置するのは難しいと感じる。

委員：空調は利用者に対するサービスの基本的な部分だと思う。建て替え時期が確定していない中で市民に我慢をさせるべきではない。これまでの提言を実現させた効果がエアコンを整備することにより増大する。

事務局：現在は、増改築の規模も見通しがついてない。トイレの位置や2階部分の用途などを考えると、どうなるのか色々な可能性がある。

委員：市民の意見として、図書館は明るく快適であってほしいという要望があることを捉えてほしい。この場で実現の可否を議論すべきではない。

委員：図書館を市民の居場所と位置付けているそうだが、窮屈な図書館でそれを目指すのは困難。周辺に新しい施設が次々と開設されている中、図書館はエアコンが整備されていないことを強調することで、建て替えの機運は向上するのでは。この建物では限界がある。

委員：そもそも図書館の課題を整理し改善する目的で、あり方検討委員会が組織された。図書館をなんとかしなければいけないという前提で、だからどういいう図書館が必要なのかを検討してほしいと話し合っをまとめたのが、あり方検討委員会の結論。この図書館を維持しましょうというのではなく、この図書館を新しい形のものにしましょうと。結論がでていことをあえ

てここで論じる必要もないのでは。あとは、予算が確保された段階で、具体的なことを議論すれば良い。

委員：例えば発想を変えて、図書館をどこかに間借りしたり、分散させるとかを何年かするとかして、そうしてやっぱり図書館が欲しいといった新しいアイデアも欲しい。

設備についても、エアコン以前に土足で入館したい。新ひだか町ではトイレ利用のみでも施設を利用してもらいたいとの考えから、トイレを玄関に隣接して設置していた。また、館内に食べ物を持ち寄ってサークル活動ができる部屋もあった。端的に施設を利用している市民が、何度か足を運ぶにつれて図書館を利用するようになるのでは。

委員：一般的には土足の方が入りやすいのか。そういった図書館の方が多いイメージはあるが、土足禁止の方がきれいなのかなとも思う。他の委員に聞きたい。

委員：靴の着脱が面倒。新ひだか町でも雨の日を除いて土足でも汚れることはないとの説明を受けた。

委員：現図書館を土足にすると泥だらけになると思われる。玄関部分が短いので、入館するまでに靴の汚れが取れない。新ひだか町はそうだったが長いエントランスを歩くうちに泥がかわく、そういうシステムになっている。すぐに土足にできるかというとなかなか難しい。

委員：新ひだか町では古い建物でも土足だと聞いた。

委員：改築しなくても土足化はすぐにできるのでは。

委員：どちらにしても絵本コーナーは靴を脱ぐことになる。その際のキャパシティーや管理する上で問題があるのでは。困ったりというのが必要かも。

委員：書架にしても下までびっちり本が詰まっているので。

委員：いずれにしても、すぐにできることはある。アイデアをだしあって。できることをすぐに実行しないと変わらない。

もう一点、司書の正職員化の話もあったが、指定管理者制度の検討をすべきと思う。市職員は人事異動があるので図書館に職員を固定できないけれど、民間であれば長年、経験を積むことができる。メリットは大きいと感じる。

委員：この会でも当初議論していたが、図書館に指定管理は相応しくないという結論がでてた。

委員：あり方検討委員会でも話題にはなったものの議題にしなかった。それは、図書館のあり方が決まらない中で指定管理は議論できなかった。そもそも市民レベルで指定管理者制度導入を要望だすものかどうかともわからない部分もある。

委員：直営である限り職員体制については手が付けられないのかなと。そこで、民間が行えればもう少し柔軟にできるのではないかと。だから検討の余地があるかなと意見を出してみました。

委員：他の図書館に視察に行きまず確かめるのは、児童書の配置。新ひだか町では五十音順に配置されていて大変探しやすかった。出版社別に配置されている館は伊達の他に見当たらない。今の状況だと難しいのかもしれないけれど、もし、並び替えを行うのであれば団体を挙げて手伝うのでぜひ実施してほしい。

事務局：そのような意見は以前から出ていた。

委員：過去にも議論したが、結論を出すのは難しい。民営化についても、議題として出るものの、一長一短があり結論が出ない。教育長にも意見はできるが、要望はできない。これまでも実現可能な範囲で提言を行い多くが実現化されたが、結論が出ないものまでは提言できない。

委員：管理しやすい図書館か、利用しやすい図書館か、どちらが良いかと言われたら利用しやすい図書館になる。可能であれば私も手伝うので五十音順にしてほしい。

委員：絵本の話ですが、本が限界まで詰められて取り出せにくい書架をなんとかしてもらいたいという思いもある一方、保管場所の問題から貴重なベストセラー絵本を廃棄して欲しくないという思いもある。本を取り出せずにあきらめたこともある。

委員：一般書でもそういうところはありますね。

委員：また、絵本の背表紙から欲しい本を選ぶのも大変。見つけられず職員にお願いしてやっと見つかったこともある。市長や職員はそのことを把握しているのか。

事務局：職員はそのことを把握していて、最近では書架の本を減らしたり、表紙をみせる努力はしている。

委員：一冊でもいい本を手取る機会をとという図書館の気持ちはわかるけれど。

委員：実現可能かどうかは別として、運営協力会として図書館に市長や教育長を招き、これまで委員会で話し合われた課題を直接説明したいのですがということと言えるかもしれない。

委員：それは新しい図書館の整備を早めるためですか。

委員：金銭的な問題を考えると、実際にあって伝えた方が伝わるのでは。そういう機会を設けたいということで要望として挙げてもいいのかと。市長に会として説明する場を設けてもらえないかと。

事務局：昨年度、一度市長や教育長や関係する部署の職員が来館して図書館の職員が説明してはいる。



委員：確かに以前に比べれば手ごたえはある。

委員：この建物は昭和55年ですよ。耐震診断を行っているのか。

事務局：建て替えにあたって検討する中で、耐震診断も考えている。この建物をどう活かすかを基本設計で判断していきたい。現施設では耐震診断の義務が生じないので実施していない。教育委員会としてはあと2・3年のうちに建て替えを行いたいと考えており、財政当局の判断を仰いでいる。

委員：建て替えまでの最短のスケジュールは。

事務局：最短だと4年くらいですが、情勢によっては何ともいえない。ただ、昨年度に基本方針を策定しているので基本的な考え方は変わらないが、具体的な部分については運営協力会の意見も参考にしながら実施設計に盛り込みたい。

委員：新ひだか町を視察して伊達で参考になるかと思ったのが天井の高さ。本棚が高くても明るさが確保できるということ。今よりも天井を高くすると少ない面積でもある程度の蔵書数を確保することができるなど。また、例えば土足での入館とするならば、それを前提とした建物の建て方もあるでしょうし。土足の方が入りやすいと感じるし。他自治体の図書館に行ったこともあるがどこも児童向けの箇所は必ず仕切っていて、絵本コーナーや子どもの読み聞かせを行う部分だけ靴を脱いで入るようになっていた。

委員：新しい図書館に対する期待や興味関心ばかりが高いので、議題が偏りがちだけれど。今回はもっと図書館の運営部分に議題を傾けるべきだった。

委員：提言したものを具現化するためには、2年や3年はどうしてもかかってしまうと思う。予算付けもある。

事務局：情報発信にしても前年度から準備を進める部分がある。

委員：図書館の情報をインターネット以外のどこで目にするかということ。

事務局：新聞社には情報提供を行っているが、掲載されるかはそのときどき。

委員：人が集まるのは市役所やカルチャーセンターかなど。そこに目立つように道の駅などにも図書館のパンフレットなども置いて活動内容をPRできないのか。

事務局：休館カレンダーに当該月の行事を掲載し公共施設に配布している。そのほか、子どもが集まる施設にも情報提供を行っている。

委員：最後に、新ひだか町は館内が広く落ち着かないという意見もあったのですが、書架の間を車椅子が通りやすくなっていたので理想だなと思った。館内が広いということは静かに過ごせそうだと感じた。

委員：DVD貸出も充実していた。地域性もあると思うが、図書館でもレンタルショップにない作品を充実して貸出・閲覧があれば図書館に行きたいと思うのでは。新ひだか町にはCDもありました。

事務局：地域性もあるのかなど。映画館がない地域では映像作品を備えているところもあるようです。あとはどこに力を入れるのかということ。今後の人口減も踏まえて、維持管理を念頭におきながらどこに注力するのか持続可能な施設整備をしなければというのはどこの図書館も悩んでいるようだ。

委員：新ひだか町では車椅子と歩行者がすれ違い可能な通路幅を確保していた。

委員：伊達の人口は減っているが、介護施設入居してる方に利用していただくなど、新たな利用者を創出する可能性はある。

委員：様々な意見が出た。増改築によって様々なことが解決し、これまでできなかったことができるようになる。このことを強調しつつ、今回の内容を事務局と整理し、次回の会議でお示ししたい。